

社会福祉法人 上越老人福祉協会

平成28年度 事業実施状況報告

## 目次

### 資料1（法人事業概要）

1. 全体評価	P 1
2. その他の評価	
3. 各事業の報告	
(1) いなほ園グループ 事業活動	P 5
(2) 新光園グループ	
(3) 高田の郷グループ	
4. 各種委託事業の状況報告	P 15
資料2（利用率等の状況）	P 17

## 法人事業概要

29.4.01

事業種別	事業所名	定員	開設年月日	事業内容
特別養護 老人ホーム	いなほ園	135	S49.5.11	寝たきりや認知症で日常生活において常に介護が必要で、自宅では介護ができない人が対象です。食事、入浴などの日常生活の介護や機能訓練、健康管理が受けられます。原則、要介護3以上の人に限定されます。
	新光園	76	H8.5.27	
	みずほ園	29	H27.4.1	
介護老人保健施設	高田の郷	96	H9.4.18	病状が安定し、リハビリテーションが必要な人が利用する施設で、食事、入浴などの日常生活の介護や機能訓練など、在宅の生活への復帰を目指したサービスが受けられます。
軽費老人ホーム	千寿園	50	S55.4.1	60歳以上の、心身が健康で他の介助を必要としない人で身寄りがないか、又は家庭の事情等により家族と同居が困難な人が入所できます。
ケアハウス	ケアハウス上越	30	H7.4.1	自炊ができない程度の身体機能の低下、又は高齢のため独立して生活するには不安のある方が入居できます。
	みのりの家	16	H13.4.1	
認知症 グループホーム	敬寿	9	H9.4.18	認知症の高齢者が少人数で共同生活をしながら、家庭的な雰囲気と地域住民と交流の下、介護や機能訓練が受けられます。
	宝寿の家	9	H12.5.1	
	なかよし寿の家	18	H10.5.1	
	百寿の家	18	H23.12.10	
小規模多機能型 居宅介護	光寿の家	25	H27.4.1	「通所サービス」を中心に「訪問サービス」や「泊りサービス」を組み合わせ、本人の心身の状態や希望に応じ、食事、入浴、排せつ等介護や機能訓練などが受けられます。
	本町楽寿の家	29	H28.10.1	
通所	いなほ園デイサービスセンター	30	H13.4.1	事業所に通い、食事、入浴の介護、レクリエーション、リハビリテーションなどの「基本サービス」の他、利用者の状況に応じた「選択的サービス」が受けられます。
	デイサービスセンター新光園	30	H8.5.27	
	高田の郷通所リハビリテーション	30	H9.4.18	
短期入所	いなほ園ショートステイ	20	H13.4.1	短期間入所し、介護やリハビリテーションが受けられます。
	新光園ショートステイ	4	H8.5.27	
居宅介護支援	ケアプラン いなほ園	—	H11.9.7	利用者の希望や状態に応じたケアプランの作成管理を行います。
地域包括支援 センター	高田の郷	—	上越市より委託	高齢者の総合相談、権利擁護、地域包括ケアシステムの構築、介護支援専門員への支援を行います。
	新光園	—	上越市より委託	
シルバーハウジング 事業	生活援助員派遣（子安住宅）	—	上越市より委託	高齢者世話付住宅に入居する高齢者の在宅生活を支援するため、生活援助員を派遣して生活指導・相談、又は安否確認等のサービスを提供します。
	生活援助員派遣（安江住宅）	—	上越市より委託	



## 1. 法人事業経営の概要

### (1) 収支状況

収入の状況

単位：千円

事業種別	平成 27 年度	平成 28 年度	前年対比
特養	933,100	946,772	13,672
老健	348,010	385,428	37,418
ケアハウス	30,765	30,942	177
認知症グループホーム	211,283	217,114	5,831
小規模多機能型事業	74,122	102,513	28,391
通所事業	273,332	258,225	△15,107
短期入所事業	147,045	103,739	△43,306
居宅介護支援事業	24,298	19,634	△4,664
法人全体	2,041,955	2,064,367	22,412

#### ※特記事項

- 定員変更 H27.7.1 特養新光園 60名から76名へ増員  
新光園短期入所 20名から4名へ減員
- 事業統廃合 H28.6.30 いなほ園認知症型通所事業廃止  
H28.9.30 小規模多機能型事業「楽・らく寿の里」事業休止  
本町通所・短期入所事業廃止  
H28.10.1 小規模多機能型事業「本町楽寿の家」開設

#### まとめ（評価・課題・改善策）

特養は、新光園の定員増員による収入増であり、各施設とも重度化、入院者増による影響が生じた。介護力向上による健康状態の維持安定が課題となる。

老健は、入所システムの見直しと関係機関への情報提供等による連携強化が大幅な利用率増加につながった。施設の特性を生かした取り組みを継続したい。

グループホームは、入退所が多く利用率維持に苦労した。10月からの食費居住費の値上げが収入に反映された。入退所管理の迅速化が課題となる。

小規模多機能型事業は、光寿の家の登録者増加、本町楽寿の家の開設が収入に反映されている。光寿の家の入退所が同数であり、増加の確保が課題となる。

通所事業は、本町の事業廃止が収入減となっている。サービス内容の充実と居宅支援事業所との連携、情報提供が必要となる。

短期入所事業は、高田の郷の受入れ変更、新光園の定員減による影響、本町の事業廃止が収入減となった。定期利用者の確保が課題となる。

居宅介護支援は、産休職員体制による給付管理数の減少が生じた。

## 支出状況

単位：千円

内 訳	平成 27 年度	平成 28 年度	前年対比
人件費	1,450,002 (71.0%)	1,502,050 (72.7%)	52,048
事業費	380,172 (18.6%)	372,377 (18.0%)	△7,795
事務費	134,266 (6.6%)	128,079 (6.2%)	△6,187
その他費用	112,960 (5.5%)	121,048 (5.9%)	8,088
支出計	2,077,400	2,123,554	46,154

## まとめ（評価・課題・改善策）

人件費は、定期昇給分と臨時職員から正職員への切替による支出増となった。収入に応じた適正な賃金体系への転換を検討している。

事業費、事務費は、介護用品費は単価削減、光熱水費は使用及び単価削減による支出削減ができた。

## (2) 収支差額状況（目標収益率：3%・実績：0.43%）

## サービス活動増減差額の状況

単位：千円

事業種別	平成 27 年度	平成 28 年度	前年対比
特養	17,130	24,391	7,261
老健	△17,248	16,678	33,926
ケアハウス	△2,294	△3,175	△881
認知症グループホーム	△2,288	△4,347	△2,059
小規模多機能型事業	△8,552	△5,981	2,571
通所事業	11,578	10,732	△846
短期入所事業	△33,233	△28,938	4,295
居宅介護支援事業	1,289	△393	△1,682
法人全体	△33,618	8,967	42,585

## まとめ（評価・課題・改善策）

特養は、収益率が前年比 0.7%増加した。新光園の定員増による収入増の反面人件費の増加により結果として微増に留まった。人件費増の検証と対策が必要。

老健は、収入増により、収益率が前年比 9.2%の大幅な増加となった。老朽化による設備更新が予定されており計画的な取り組みが必要とされる。

グループホームは、収益率が前年比 0.9%減少した。主因は、臨時職員から正職員への切替による人件費増がある。今後は収益を見据えた職員配置と採算性からの事業の見直しが必要とされる。

短期入所は、収益率が前年比 5.2%減少した。主因は、事業廃止、定員減等による大幅な収入減によるが、一方不採算性が低減された効果があった。

(3) 受託事業の収支状況

サービス活動増減差額の状況

単位：千円

事業種別	平成 27 年度	平成 28 年度	前年対比
軽費・ケアハウス	3,390	3,891	501
地域包括支援センター	591	3,947	3,356
シルバーハウジング	0	21	21
法人全体	3,981	7,859	3,878

まとめ（評価・課題・改善策）

軽費千寿園、ケアハウス上越は、共に前年比より委託料が減額されたが、自助努力によって経営管理した。要介護・要支援認定者が増加しており介護予防の観点から入所者容態に沿った業務体制、費用対効果面からの見直しが必要とされる。

地域包括支援センターは、実績払いとなる業務件数及び介護予防支援業務件数による差異が生じた。平成 30 年度からの再配置案が検討されている。

2. その他実施状況

(1) 離職率の状況（目標率：5%以下 実績：8.4%）

昨年 5.9%から 8.4%と増加した。特に非正規職員の離職が多い。離職理由として家庭都合（養育・介護）、体調不良（腰痛・メンタル等）、結婚等による異動、転職の順となっている。職場環境改善の更なる取り組みが必要とされる。

(2) 事故率の状況（目標率：8%以下 実績：12.2%）

昨年 13%から 12.2%と僅かな減少があったが、突出しているのが特養の受診、入院が増えている。特に昨年なかった入院が 9 人となった。予防対策の検証が必要とされる。

(3) 課題別プロジェクトの活動報告

課題	活動報告
給与の見直し	他法人の経営分析から法人の実情と課題を共通理解した。見直しの目的、目標を確認しながら検討を重ねた。
事業見直し	計画通り進められた。 9.30 楽・らく寿の里事業休止 29.3.31 事業廃止 9.30 本町通所、短期入所事業廃止 10.1 本町楽寿の家事業開設 ※楽・らく寿の里の跡地処理の取組み継続中
腰痛予防	法令に基づいた腰痛検診歴の様式を法人で統一し継続性を持たせた。始業前予防運動の試行実態を情報共有した。介護者負担軽減の福祉機器導入の検討も必要とされる。

#### (4) 人材確保と職員教育・育成

平成28年4月新採用職員は、介護職員3名、看護職員1名、調理員2名、生活相談員1名、理学療法士1名。介護福祉士資格取得により臨時職員から正職員への採用は8名である。

職員研修はステップアップ研修、スキルアップ研修を計画通り実施した。認知症研修では、地域住民にも参加いただき地域における公的な役割を果たした。

#### (5) 地域貢献活動

法人内において、福祉ニーズ把握に「地域懇談会」開催を通じて、老人会へ介護予防体操会の定期開催につなげた。又、「地域公開講座」と称し、介護保険制度説明やサービス紹介及び利用方法等をわかりやすく説明し在宅介護支援に取り組んだ。活動を返して依頼のあった「介護予防教室」にも積極的に協力参加した。諏訪地区がはじめた新総合事業（介護予防サロン）に専門職（理学療法士）を定期的に派遣し成果を得た。

関連法人で構成する「和・道」医療福祉グループでは、障がい者及び高齢者福祉の理解を深め、地域の共生力を育む目的から、春から夏には、「健康福祉花見会」「ひまわり植栽及び越後ひまわり祭」、秋には「はさ木福祉マラソン並びにはさ木フェスタ」への参加及び開催を通じ、諏訪地域を含めた市民に向けた活動を展開した。



### 3. 各事業（グループ）の報告

#### (1) いなほ園グループ事業実施状況

<p>特 養</p>	<p>(利用率) 97.3% (目標) 98.0% (前年) 98.0%</p> <p>①利用率状況 6月から10月にかけて入院者が多く安定せず、1月から3月は98%以上と安定したが年間目標には届かなかった。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 20,645 千円 (対前年比 19,652 千円) 紙おむつ削減、夏季の電気量監視盤効果、消耗品節約等事務・事業費前年対比△13,054 千円削減できた。</p> <p>③サービス実施状況 重度化により入院者が 52 名 (前年度 39 名) と多く、年間利用率に影響した。他職種共同により今年度は栄養ケアマネジメントに加えて4月から経口維持加算に取り組み 312 件の実績があった。</p>
<p>短 期</p>	<p>(利用率) 88.8% (目標) 90.0% (前年) 85.7%</p> <p>①利用率状況 4月、5月に定期利用者が7名特養入所となったが、利用期間延長、新規利用等により90%以上を超える月も多く、平均88.8%の利用率となった。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額△7,094 千円 (対前年比△1,739 千円) 電気料金、紙おむつ代、消耗品の節約等により1,250 千円の削減ができたが、職員充足のため人件費は3,400 千円増であった。</p> <p>③サービス実施状況 ケアハウス上越、千寿園など法人内サービス事業所と連携を図り、急なキャンセルに対応し利用者確保につなげた。</p>
<p>通 所</p>	<p>(利用率) 78.0% (目標) 85.0% (前年) 76.9%</p> <p>①利用率状況 7月の統廃合後、利用者確保に努め、9月以降は80%台に安定した。2月、3月は85%を超えている。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 5,772 千円 (対前年比 △3,400 千円) 7月の統廃合による定員減のため収入が対前年比△4,000 千円であった。支出は、電気料金、消耗品の節約によりある程度効果はあったが前年並み</p>

	<p>であった。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>7月から認知症型と一般型を統廃合し定員35名から30名で運用を開始した。認知症高齢者は以前と変わらず利用でき、相談員配置基準も1名減員となり効率的な運営が可能となった。</p>
G H な か よ し	<p>(利用率) 97.2% (目標) 98.0% (前年) 93.8%</p> <p>①利用率状況</p> <p>4月から7月に入退所が多く安定せず、9月から1月は満床、2月・3月は退所者があり利用率を下げ、年平均97.2%であった。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>サービス活動増減差額△339千円(対前年比2,618千円)</p> <p>10月より入居費食費を値上、利用率は前年対比3.4%増加し収入は3,200千円増収であった。支出はほぼ前年並みであるが光熱水費及び消耗品の削減はできている。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>身体介護の必要性が高くなり、特養入所、入院、認知症の進行による退所などで年間12名の入退所があった。</p>
G H 宝 寿	<p>(利用率) 99.2% (目標) 98.0% (前年) 97.6%</p> <p>①利用率状況</p> <p>11月、12月は特養入所、入院者があり利用率を下げたが、年間を通じて安定していた。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>サービス活動増減差額△1,537千円(対前年比738千円)</p> <p>10月より入居費食費を値上、利用率は前年対比1.6%増加し収入は1,300千円増収であった。支出は前年並みであった。</p> <p>③サービス実施状況</p> <p>法人事業所別会議を毎月実施し、待機者の状況について法人内4グループホームで情報共有している。</p>
C H み の り	<p>(利用率) 100% (目標) 100% (前年) 100%</p> <p>①利用率状況</p> <p>年間を通して16室満床であった。退所者4名、入所者4名。</p> <p>②収支差額状況</p> <p>サービス活動増減差額△3,175千円(対前年比 △880千円)</p> <p>収入支出ともに前年並みであった。</p>

の家	<p>③サービス実施状況 法人3施設合同で入所案内チラシを作成し、地域包括支援センターへ配布。申込者が増加している。</p>
み ず ほ 園	<p>(利用率) 97.6% (目標) 98.0% (前年) 95.3%</p> <p>①利用率状況 年間退所者9名であり、利用率は9月から12月まで高率で推移したが平均97.6%であった。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額△41千円(対前年比1,621千円)。 開所当初より購入物品が減少し、紙おむつ代△900千円など支出は削減できている。</p> <p>③サービス実施状況 入院者は5名。入院が長期化する例もあり、効率化のため10月から空床ショートを認可開設した。問い合わせは2件あったが実績には至っていない。</p>
光 寿 の 家	<p>(利用率) 平均登録者数18名72% (目標) 登録者数22名88%</p> <p>①利用率状況 年間新規登録者4名、年間終了者4名。目標登録者数に達していない。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額△2,232千円(対前年比9,288千円) 支出は開所当初より購入物品が減少したが、職員充足による人件費5,700千円増により対前年比4,750千円増であった。</p> <p>③サービス実施状況 運営推進会議、米岡地区秋祭り・防災訓練参加、越後高田はさ木農道マラソンのゴール会場などを通じて、積極的に施設周知を行っているが、更なる情報発信力が必要である。</p>
は さ 木 研 修 セ ン タ ー	<p>①利用状況 利用延べ人数 約2,500名(前年1,500名)</p> <p>○新潟県受託研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度 喀痰吸引研修 2回開催(18日間)</li> <li>・平成28年度 新潟県小規模多機能型サービス等計画作成者研修2日間</li> <li>・平成28年度 新潟県認知症介護実践者研修 3回開催(18日間)</li> <li>・平成28年度 新潟県認知症介護基礎研修</li> </ul> <p>○法人内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・監督職研修、中堅職員研修(6回)、危機管理研修、認知症研修(2回)</li> </ul> <p>○いなほ園</p>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・救急法講習会（3回）、家族会研修会</li><li>○米岡の郷</li><li>・運営推進会議（6回）</li><li>○地域関係</li><li>・諏訪地区交流会、米岡地区健康講座</li></ul>
--	--

(2) 新光園グループ事業実施状況

入所	<p>(利用率) 98.2% (前年) 98.2%</p> <p>① 利用率状況 退所から新入所までの期間をほぼ1週間でおさえることができた。さらに法人内で入所申込者を統一管理したため新規受入に好影響を生んだ。また、感染症の発生が0件であり利用率維持につながった。</p> <p>② 収支差額状況 サービス活動増減差額 3,787 千円 (前年比△14,010 千円) 収益は 60 床→76 床のベッド数を年間安定利用したため、前年比 15,000 千円改善した。人件費前年比 24,000 千円増加し、とりわけ時間外手当の増加率が顕著であった。</p> <p>③ サービス実施状況 重度化により介護量が増加した。ピークタイムに人員を手厚くするなど工夫し、効果的なケアに取り組んだ。また介護力向上研修を受講し、自立支援介護についてのスキルアップを図った。</p>
短期入所	<p>(利用率) 84.1% (前年) 91.4%</p> <p>① 利用率状況 ベッド数減少による利用調整が困難で利用率に反映できなかった。居宅訪問についても徹底不足であった。しかし、登録者の確保はできており在宅利用者の受入窓口としての機能は維持できた。</p> <p>② 収支差額状況 サービス活動増減差額△2,268 千円 (前年比△772 千円) 収益は特養の裏返しと利用率減で前年比△17,215 千円。支出も減少したが、単体では収益ベースに乗らないため、特養への転換をすすめていく。</p> <p>③ サービス実施状況 利用者のニーズを捉えやすくなり、手厚いケアサービスの提供ができた。また信頼関係が構築しやすくなった。</p>
通所	<p>(利用率) 77.0% (前年) 76.9%</p> <p>① 利用率状況 冬季感染症発生時の落ち込みを除き堅調に推移した。要因としてリハビリ体制充実をPRした効果が挙げられる。予定利用率から10%近く減少する傾向は変わらないため、キャンセル防止に工夫を要する。</p> <p>② 収支差額状況 サービス活動増減差額 2,593 千円 (前年比△2,857 千円) リハ加算算定が充実したため約 2,039 千円増収。支出では人件費で 6,200 千円増加。3名分の正規職員転換あり各種手当に影響した。</p>

	<p>③ サービス実施状況 個別機能訓練加算Ⅰをほぼ毎日、加算Ⅱは８月から曜日を限定して算定した。定期的な住環境確認を多職種連携で実施し、リハビリ計画作成と評価を順調に進めることができた。</p>
G H 百 寿	<p>(利用率) 97.3% (前年) 97.1%</p> <p>① 利用率状況 上半期は高率に推移したが、２月以降は職員の病気による欠員が深刻になり、新入所を受けられない状況になった。</p> <p>② 収支差額状況 サービス活動増減差額 2,185 千円 (前年比△2,141 千円) 収益は食費値上げにより 1,541 千円増収。人件費 3,830 千円増。臨職から正職員への転換、人員不足による時間外手当増大が要因。</p> <p>③ サービス実施状況 上半期は稲作プロジェクトへの参加利用者あり。外出と参加に視点をあてた活動ができた。町内行事では地域住民との交流を行った。</p>
C H 上 越	<p>(利用率) 97.6% (前年) 99.4%</p> <p>① 利用率状況 ひと月にまとまった退居者(４名)があり、その後の入居が追いつかなかつた事、感染症の発生により新入居を遅らせた事が影響した。</p> <p>② 収支差額状況 サービス活動増減差額 △829 千円 (昨年比△1,780 千円) 利用率減による収益減は微減(△350 千円)にとどまった。照明器具の経年劣化により修繕費が増加した。</p> <p>③ サービス実施状況 町内子供会と、本町花ロード作品の共同制作を通して交流会を行った。健康体操や健康チェックなど、介護予防として日常的に実施した。</p>
地 域 包 括 支 援	<p>① 実態把握 514件 (目標) 480件 (前年) 493件 ② 予防給付 1182件 (目標) 1200件 (前年) 1829件 ③ 総合事業 840件 (目標) 1004件 (前年) 426件 ④ 地域連携表 72件 (目標) 100件 (前年) 97件 ⑤ 取り組み状況 年間相談 5,503 件、地域ケア会議 4 回、個別地域ケア会議 11 回、予防プラン自己点検 177 件、サロン等参加 44 回、協議体参加 5 回、サービス事業所運営推進会議 13 事業所 36 回、居宅CM研修会 3 回、重症化予防訪問 5 件、こころと体元気教室 1 回、自殺予防研修会 3 回、健康づくり推進活動チーム研修 3 回、介護予防講座 6 回、成年後見制度申立 3 件 (相談 3 件)、高齢者虐待対応 3 件</p>

(3) 高田の郷グループ事業実施状況

<p>入所 短期含む</p>	<p>(利用率) 91.4% (前年) 82.4%</p> <p>①利用率状況 入所に関するシステム(入所判定会議の実施方法や職員役割の見直し)の変更や居宅等の関係機関との連携強化、短期入所受入れ方法の変更が良い結果となり昨年比9%改善した。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 11,199 千円 (入所 16,678 千円、短期△5,479 千円) (前年比) 27,825 千円 (入所 33,926 千円、短期△6,101 千円) 収入は前年比 30,761 千円 (入所 37,417 千円、短期△6,656 千円) 改善した。支出は利用率上昇に伴い給食費 5,000 千円、医薬品代 1,500 千円程度増加するがおむつ代で 2,000 千円削減した。</p> <p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ あいまいだった支援相談員とケアマネの業務分担を見直し、ケアマネジメントサービスの要とした。それにより専門職間の連携がスムーズになった。</li> <li>・ 食事委託業者を食味面から選考し、切替により利用者から好評を得た。</li> </ul>
<p>通所リハ</p>	<p>(利用率) 73.9% (前年) 69.5%</p> <p>①利用率状況 入所担当の支援相談員と定期的な居宅等関係機関の訪問により新規利用者が 36 名増加した。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 3,959 千円 (前年比 5,014 千円) 収入は前年比 3,452 千円改善、支出は前年比 1,561 千円削減した。</p> <p>③サービス実施状況 短期集中リハ加算 11 件、言語訓練 33 件、在宅訪問 29 件実施し在宅支援に取り組んだ。特に ST による言語訓練の希望が多く、業務調整により対応した。</p>
<p>敬寿</p>	<p>(利用率) 96.6% (前年) 98.5%</p> <p>①利用率状況 上期、体調不良による入院者が多かったことと、9月に1名が入院後そのまま退所となり利用率が低下した。下期は入退所なく安定した。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 △5,335 千円 (前年比△3,282 千円) 収入は前年比△218 千円、支出は臨時から正職員の切り替え等により人件費が 2,729 千円増加した。</p>

	<p>③サービス実施状況 毎月の行事の他、地域のサロンや行事等にも参加し社会交流をおこなった。1回/毎週の稲作プロジェクト参加の支援をした。</p>
本町楽寿	<p>(利用率) 97.5 % (前年) なし</p> <p>①利用率状況 開所当初より登録定員はほぼ満床の状態で、利用率は安定している。また、基準該当障害者サービスも受け入れ可能な範囲で受け入れている。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 △6,449 千円 収入 33,830 千円に対し人件費が 84%を占めていることとその他の固定費(土地の賃借料等)大きく収支に影響を与える。</p> <p>③サービス実施状況 大きなトラブルなく、おおむね順調にサービス提供できている。独居高齢者が多く、在宅生活を支えるために訪問支援が重要な役割となっている。職員の力量には差異があり、今後の課題となっている。</p>
居宅	<p>【給付管理数】 1,227 件 (前年) 1,501 件 (予防件数) 132 件 (前年) 154 件</p> <p>①利用率状況 年度当初 4 人体制だったが、12 月から産休者が発生し以後 3 人体制となる。それにより管理数は目標比 96%となる。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 △393 千円 (△1,681 千円) 収入は前年比△4,663 千円、支出も人員欠のため 2,800 千円減少した。</p> <p>③サービス実施状況 新規の受入れを積極的におこなうが対して、入院や施設入所、死亡などの契約の終了者も多数目標値には届かなかった。</p>
千寿園	<p>(利用率) 97.5 % (前年) 97.4%</p> <p>①利用率状況 低所得者や虐待事案など困難ケースの受け入れを積極的に行い、前年比 0.1%改善した。</p> <p>②収支差額状況 サービス活動増減差額 4,657 千円 (2,218 千円) 収入は指定管理料減額 (△1,766 千円)により約 1,577 千円減少した。支出は人件費で△4,368 千円、事業・事務費で食材費や宿直業務の契約の増と危険個所の修繕により 907 千円増加。</p>



	<p>③サービス実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の軽費老人ホームへ視察研修を実施。軽費老人ホームの制度や性質について理解を深める機会とした。</li> <li>・日常の健康管理について、看護職員と介護職員が緊密な連携を図り、日々の継続性に反映させる状態把握を徹底した。</li> </ul>
地域包括支援	<p>①実態把握 507件 (目標) 500件 (前年) 304件</p> <p>②予防給付 1293件 (目標) } 2400件 (前年) 1734件</p> <p>③総合事業 1289件 (目標) } 件 (前年) 641件</p> <p>④地域連携表 95件 (目標) 100件 (前年) 91件</p> <p>⑤取り組み状況 実態把握は目標を達成することができた。総合相談の窓口として、生活・介護に関する相談、退院時の支援を継続して行った。</p>



#### 4. 各種委託事業

##### (1) 新潟県（新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	第1回 実践者研修	第2回 実践者研修	第3回 実践者研修	管理者研修
研修月日	6月16日 ～8月12日	8月18日 ～10月14日	10月20日 ～12月16日	12月7日 ～12月8日
受講者数	53名	54名	30名	26名

研修名称	新潟県小規模多機能型計画作成研修	基礎研修
研修月日	10月5日 ～10月6日	11月11日
受講者数	30名	34名

##### (2) （新潟市）認知症介護実務者研修

研修名称	新潟市小規模多機能型計画作成研修	
研修月日	平成29年2月22日 ～2月23日	
受講者数	21名	

##### (3) 上越老人福祉協会喀痰吸引研修

	第1回	第2回
基本研修 (講義)	平成28年7月21日 ～8月3日	平成28年11月17日 ～12月5日
基本研修 (演習)	平成28年8月18日 ～8月25日	平成28年12月19日 ～12月26日
修了者	31名	30名